様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　24　年　5　月　14　日現在

機関番号：15401
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2009～2011
課題番号：21520820
研究課題名（和文）　ネオリベラリズムの時代の資源管理と共同体―フィリピンの海域資源管理の事例から

研究課題名（英文）　Resource Management and Community in the Age of Neoliberalism
研究代表者　関　恒樹（KOKI SEKI）
広島大学・大学院国際協力研究科・准教授
研究者番号：30346530

研究成果の概要（和文）：フィリピンにおける海域資源管理の共同体的資源管理（Community Based Coastal Resource Management, CBCRM）に関して、現在進行中のフィリピン西部パラワン島におけるプロジェクトを事例として、住民間の階層、ジェンダー、エスニシティなどの差異に注目しつつ、資源管理の影響がいかに異なる影響を住民間に及ぼしているか、そこにはどのような共同体の動態が見出されるかなどに関して、フィールドワークやインタビューを行い、エスノグラフィックな資料に基づいて議論した。

研究成果の概要（英文）：This study discussed the coastal resource management of the Philippines and its impact on the dynamism of the community. Particularly focusing on the case of Palawan Island of western Philippines, it collected the ethnographic data on the interactions of local resource users, NGOs, local government, State, and also international environmental NGOs which act as donors.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総　計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：文化人類学
科研費の分科・細目：文化人類学、文化人類学・民俗学
キーワード：文化人類学、海域資源管理、フィリピン、市民社会、共同体

１．研究開始当初の背景

環境や自然資源と人間の相互交渉を扱う近年の文化人類学的研究においては、グリーン・ネオリベラリズム的資源管理レジームに内包される権力関係が明らかにされるとともに、資源管理を近代に特有の知識と言説の装置として捉え、それが人間を合理的資源管理者として訓練し、規範化し、主体化してゆくプロセスが議論されてきた、しかしこれらの研究においては、資源管理制度という統治の装置が、地域の資源管理主たちを拘束し、馴化して行く局面は論じられても、一方で地域住民達が制度を捉え返し、咀嚼しつつ、自らの生活世界に文脈化してゆく実践が十分には議論されていない。このような背景を鑑みたときに、必要とされるのは、資源管理をめぐる諸ステークホルダー達が置かれた非対称的権力関係を見極めつつ、そのような関係性における拘束と統治を生きる個人が、

様々な社会関係とネットワークを利用しつつ、共同体の資源利用をめぐる秩序を改編して行く人々のエイジェンシーに注目する研究である。このような研究の背景に基づき、本研究では、資源へのアクセス、領有、分配をめぐる交渉の過程で生じる様々なステークホルダー達の権力関係が複雑に絡み合う場としての共同体に照準を合わせ、そこに見出される新たな共同性のあり方を明らかにすることを試みた。

２．研究の目的

本研究の目的は、ネオリベラリズムを背景に新たな展開を見せる資源管理制度と、資源利用者達の日常世界との接合の局面において、人々が状況依存的に可能な資源利用形態を選び取り、自らの生活設計を便宜的かつ暫定的にではあれ構築してゆく社会的実践を、フィリピンの海域資源管理の事例から明らかにすることである。資源管理への文化人類学的アプローチが明らかにしなければならないのは、国際援助機関、NGO、各国政府が処方するしばしば画一的、標準的な公正さ、適正さ、正当性に基づく「上からの」管理と統治性を捉え返し、村落の社会生活に内在する固有の文脈に即した独自の「公正さ」、「適正さ」、そして「正当性」に基づく資源利用のあり方を模索する地域住民たちの実践であろう。このような視点は、地域社会と文化の多様性に根差した「持続可能な資源利用」のビジョンと制度構築にむけた基礎研究に欠かせぬものとなるであろう。

３．研究の方法

本研究は、文献・２次資料の読解、分析と、フィリピン現地での参与観察、インタビューを中心とするフィールドワークによる資料収集、これらを主な研究の方法として実行される。文献資料には、フィリピン、東南アジアの各地における資源管理制度と共同体に関する民族誌的報告や理論的分析に関するもの、フィリピン政府特に国家資源省や水産資源庁などの官公庁による諸統計・白書類、さらには海域資源管理に影響を及ぼす法律、地方自治体の条例などが含まれる。

フィールドワークはフィリピンにて行われるが、そこでは国際援助機関、中央／地方政府、NGO、地域住民など海域資源管理に関わる様々なステークホルダーのネットワークを包括的かつ集約的に描くエスノグラフィー作成を試みる。

特にフィリピン西部に位置するパラワン島は海域資源の宝庫とされ、政府、国際環境系NGOなどの主導による資源管理のプロジェクトが盛んに行われている。パラワン島における沿岸諸集落においてフィールドワークを行うことによって、一次資料の収集を行う。

４．研究成果

初年度(2009年度)は、文献や統計白書等二次資料を用い、研究の大まかな理論的枠組みを構築すると同時に、フィリピンの首都マニラ、パラワン州の州都プエルト・プリンセサ市、いくつかの町レベルの地方自治体、そして沿岸漁村集落にて予備的調査を試みた。一方、マニラ首都圏では、国家資源省、水産資源省スタッフ、プエルト・プリンセサ市にてはこれら中央官庁の地方事務局スタッフなどにインタビューを行った。地方町レベルでは、海域資源管理に関する町条例を収集し、検討するとともに、海域資源管理協議会などのメンバーを中心にインタビューを行った。漁村でのフィールドワークは、研究代表者がこれまで調査を行ってきたナラ町の沿岸漁村において調査を継続すると同時に、エスニシティー、ジェンダー、社会階層、漁法や資源利用形態などの側面において性格を異にする近隣諸集落を選定し、予備的調査を行った。

これら漁村集落における調査項目は、漁法、漁撈組織、漁家経済などに関する世帯調査など基礎的作業を中心に行った。これらの基礎的資料に基づいて、比較調査の対象としての妥当性を検討しつつ、次年度以降の本調査の対象となる集落を確定した。

2010年度は、資源管理をめぐるローカル・ポリティクス、資源をめぐる国家、共同体、市民社会の関係がグローバル化の過程でどのように変容しつつあるか、国家の資源政策と共同体の文化・価値観の変容などの諸問題を分析するための理論的枠組み構築のため、資源人類学、ポリティカル・エコロジーなどの近年の諸成果をレビューし、整理した。その成果は2010年11月13日、14日につくば市にて開催された国際フィリピン研究学会（Philippine Studies Conference in Japan 2010）にて報告された。本学会では、”Environmental Change, Resource Management, and Community in the age of Neoliberal Governmentality: A Case from the Philippine Localities”と題するパネルセッションを設け、海外からの報告者としてアリゾナ州立大学教授のJames Eder氏、クイーンズランド大学（オーストラリア）准教授のWolfram Dressler氏、オーストラリア国立大学の瀬木志央氏を日本に招聘した。具体的にはこのセッションでは、グローバル化とともに浸透するネオリベラリズムを背景に新たな展開を見せる資源管理制度と、資源利用者達の日常世界との接合の局面に焦点が当てられた。そのような局面において、人々が状況

依存的に可能な資源利用形態を選び取り、自らの生活設計を便宜的かつ暫定的にではあれ構築してゆく社会的実践を、フィリピン各地における資源管理の事例から議論した。このようなセッション報告に対して、アメリカ、オーストラリア、フィリピンなど世界各国からの参加者から有意義なコメントが寄せられ、さらなる調査、研究の方向性の明確化を行うことが出来た。

2011 年度は、フィリピンにおける補足調査と研究の取りまとめ、課題に関する理論的枠組みの整理、そしてその発表に重点がおかれた。フィリピンにおいて支配的となる資源管理レジームに関し、とりわけ以下の諸点について理論的整理を行った。１）地方分権の進展と資源管理制度の関連、２）海域資源の区画化と囲い込みの状況、３）海域資源の商品化の進展、４）エコツーリズムの隆盛と地元漁民の生業への影響、５）地方自治体、ＮＧＯ、そして資源利用者間の相互交渉、６）環境統治（environmentality）とエコ・ラショナル（eco-rational）な主体の形成など。とくに、５）、６）の点に関しては、フィリピンにおけるフィールドワークによって、ライフヒストリーや日常生活の微視的資料などの定性的エスノグラフィックなデーターの収集に努めた。

これらの研究成果は、国内では日本文化人類学会、海外では国際人類学民族学連合学会（オーストラリア・パース）などにて口頭発表され、さらにこの分野において第一線で活躍する各国の研究者による論文集である”PALAWAN AND ITS GLOBAL NETWORK”(Ateneo de Manila University Press, 近刊)の一章として発表された。

本研究は、フィリピンにおける資源管理の制度構築に資する事例研究を提示しえることはもとより、現在世界各地で進展中の自然資源管理保全とその地元住民、資源利用者への影響に関して貴重な示唆を与えるであろう。さらに広く環境と人間の相互交渉を考察する環境人類学の分野においても、あらたな知見と理論的貢献が可能であると考えられる。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　4 件）

1. Seki Koki, Dynamism of Difference and Alliance in Transnational Social Fields: A Cultural Analysis of the Filipino Middle Class Identity, Philippine Studies, Vol.60(2), 査読有, 2012, pp187-222
2. Seki Koki, Governing through exclusion: un/making of citizen and community through neoliberal urban development in Metro Manila, Philippines, Japanese Review of Cultural Anthropology, Vol.11, 査読有, 2010, pp1-32
3. 関恒樹, トランスナショナルな社会空間における差異と共同性―フィリピン人ミドルクラス・アイデンティティに関する考察-, 文化人類学, 74 巻, 査読有, 2009, 1-24
4. Seki Koki, Green Neoliberalism, Ecogovernmentality, and Emergent Community:ACase of Coastal Resource Management in Palawan, the Philippines, Philippine Studies, Vol.57(4), 査読有、pp901-936

〔学会発表〕（計　8 件）

1. 関恒樹, アメリカのポスト福祉国家体制とアジア系専門職移民－フィリピン系1・5 世代移民の職業選択とアイデンティティに関する予備的考察, 日本文化人類学会中四国支部研究会, 2011 年 6 月 25 日, 広島大学東千田キャンパス
2. 関恒樹, 環境統治と主体：フィリピンにおけるネオリベラルな資源管理と生活実践, 第 43 回日本文化人類学会研究大会, 2011 年 6 月 11 日から 12 日, 法政大学
3. Seki Koki, Dynamism of Difference and Alliance in Transnational Social Fields: A Cultural Analysis of the Filipino Middle Class Identity, 国際人類学民族学連合大会, 2011 年 7 月 5－7 日, 西オーストラリア大学（オーストラリア）
4. 関恒樹, 排除と包摂の都市統治―マニラ都市貧困層地区にみる『市民』と『コミュニティ』の創出, 東南アジア学会中四国支部研究会、2010 年 7 月 10 日、広島市青少年センター
5. 関恒樹, 排除と包摂の都市統治―フィリピン・マニラ都市貧困層地区の事例から, 第 44 回日本文化人類学会研究大会、2010 年 6 月 12 日～13 日、立教大学
6. Seki Koki, Environmental Change, Resource Management, and Community in the Age of Neoliberal Governmentality: A Case from the Philippine Localities, Philippine Studies Conference in Japan, 2010 年 11 月 13 日～14 日、エポカルつくば国際会議場
7. 関恒樹, トランスナショナルな社会空間におけるミドルクラス・アイデンティティの研究－フィリピン人看護師の海外移住を事例として－, フィリピン研究全国フォーラム、2009 年 7 月 12 日～13 日、

早稲田大学
8. 関恒樹, エコ・ガバメンタリティと共同体―ネオリベラリズム時代の資源管理に関する文化人類学的考察, 第 43 回日本文化人類学会研究大会、2009 年 5 月 30 日～31 日、大阪国際センター

〔図書〕（計　1 件）
1. Seki Koki（共著), Palawan and Its Global Network, Ateneo de Manila University Press, in press.

〔その他〕
ホームページ等
http://kokiseki.wordpress.com/

６．研究組織
(1)研究代表者
関　恒樹（SEKI KOKI　　）
広島大学・大学院国際協力研究科・准教授
研究者番号：30346530

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：